科目名	肢体不自由者の教育		担当教員	谷　浩一	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SSR308
期待される学修成果	教科教育　子ども理解				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	該当なし				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	特別支援学校教諭として関わった児童生徒の学校生活全般や、その保護者及び兄弟姉妹の支援の様子を講義に反映させる。				
到達目標及びテーマ	肢体不自由児者の教育の歴史や現状に対し理解を深め、彼らに対して実際に指導していく上での留意点・注意点などが習得できる。				
授業の概要	1）肢体不自由児者の概念の変遷や肢体不自由教育の歴史を俯瞰する。 2）肢体不自由児者の障害の概要を理解する（脳性マヒを中心に）。 3）肢体不自由児教育における「自立活動」の時間にしばしば用いられる（臨床）動作法の概要を知るとともに、実際の教育現場での実践例を知る。 4）肢体不自由児教育に関わる様々な機器（車いす、自助具、等）の概要を理解する。				

授業計画	
第1回	「肢体不自由」という用語の意味とその由来など
第2回	肢体不自由児教育の歴史（明治期から昭和初期）
第3回	肢体不自由児教育の歴史（昭和中期から現在まで）
第4回	肢体不自由児療育の歴史と肢体不自由児教育のまとめ
第5回	肢体不自由（主として脳性マヒ）の概要（発見者と定義、等）
第6回	肢体不自由（主として脳性マヒ）の概要（発生原因と分類、等）
第7回	肢体不自由（主として脳性マヒ）の概要（随伴障害・二次障害、等）
第8回	教育課程「自立活動」の成立過程と年間指導計画の解説
第9回	肢体不自由者教育における「自立活動」を含んだ教育課程の編成
第10回	車いすの構造と車いす介助の際の留意事項
第11回	肢体不自由（脳性マヒ以外）の紹介
第12回	肢体不自由教育における自助具等の紹介、北米・英国における肢体不自由児者のための施設・設備
第13回	（臨床）動作法の成り立ち（歴史、用語解説、等）
第14回	（臨床）動作法の実技の紹介（リラクセイション課題とタテ系課題）
第15回	（臨床）動作法の効果

事前学修	2時間	授業内で指示された事項や配布されたプリントを事前に読み、次回の授業に備える。
事後学修	2時間	授業期間中の小テスト、および定期試験の準備として、授業中に配布したプリントや参考資料を参照し、重要事項はしっかりと覚える。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	授業中に適宜質問したり、小テスト実施後に解答を提示する等により授業で得た知識の定着を図る。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	100点満点で60点以上
上記以外の試験・平常点評価	80%	授業内容の項目ごとに小テストを行い評価する。各小テスト100点満点で60点以上必要。
上記以外の試験・平常点評価	20%	出席回数、および授業中の質疑応答の態度や内容を評価する。

補足事項	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる肢体不自由教育	安藤隆男・藤田継道（編）	ミネルヴァ書房	978-4-62309-483-7	なし
運動機能の困難への対応	樫木暢子・笠井新一郎・花井丈夫（編著）	建帛社	978-4-7679-2126-6	なし
参考資料	授業では、教員が作成・用意した資料を適宜配布する。			